

店頭から「こんにちは」

第9回

学校薬剤師の仕事の二環？ 化学物質の 刺激臭に注意を



宮川薬局(宮城県仙台市)代表
薬学博士 薬剤師
プロフィール / 1976(昭和51)年、東北
薬科大学卒業。78(同53)年、同大学大学院修士課程修
了。'87(同62)年、薬学博士学位。

みやがわとじ
宮川季士先生

地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。

小・中学校と高校には、学校医がいるのはよく知られています。ただ、学校薬剤師の存在はあまり知られていないようです…。

多岐にわたる仕事ぶり

学校薬剤師の仕事は、保健室や理科室などの薬品の管理だけではありません。

学校の環境衛生の管理、例えばプール水の検査、水道水の検査、二酸化炭素やホルムアルデヒド等の空気の検査、照度の検査など、多岐にわたります。

生徒たちが安心して授業を受けられるような環境作りと、安全管理を担当しているのです。

さらに、薬物乱用防止教室で講師となり、麻薬や覚醒剤、最近、話題の脱法ハーブや脱法ドラッグの恐ろ



しさについて、生徒たちにお話しもしています。

車内も改善された?

ある日のことです。東京へ行く際、列車に乗りました。すると、扉が開いた瞬間に、独特の刺激臭が――。

私以外にも、同じ車両に乗り込みながら、「何だか臭いわね」といつている人もいました。

私はすぐに、化学物質のホルムアルデヒド類の作業と分かりましたが、何故かなと思ひ、車掌さんに聞きました。

私「空気が臭いんですが」
車掌「はい、新型車両ですから、しよすがないんです。これから、どんどん新型車両に入

替えになるので、ますます出てきますよ、こういう車両が」

私「そうですよね、新しい路線が開通するのに合わせて車両が導入されていますよね」
車掌「はい、っ」

私「学校薬剤師をやっている、ホルムアルデヒド濃度を測定したりもしています。新建材や接着剤、床用ワックスなどで、こういうホルムアルデヒド類の刺激臭が出るんですよ」
車掌「へえ、何かおクスリでも撒けばいいのですか?」

私「おクスリを撒けば消えるというものではなく、とにかく換気して、そういう成分が揮発し切ってしまうまで、換気するしかないと思いますよ。特に、気温が上がると、揮発する量がグッと増えるのです。」

実は今、学校ではこれが問題になっていて、新聞にも大きく取り上げられています。きっちり報告して、この問題を解決してくださいね」

車掌「はあ、っ、そうですか。一応、上には伝えておきますが…」

以上の会話のように、まったく危機意識はない様子でした。私もかなり敏感なほうですので、のどがヒリヒリ、目がチカチカしてきたものです。

刺激臭がイヤだからと、次の列車に換えるわけにいかず、「では、別の車両でよろしければ、お席をご用意いたします」ということありませんでした。

結果、東京までの半分くらいは、デッキに立っていたのです。ただ、幸いなことに、その後、何度も列車を利用していきますが、同様の体験はなく、うまく改善されたようです。